

ネエ ダンナサン あるいは未・和・動

“I Say, Sir” or Mi·Wa·Do (Future·Harmony·Movement)

阿 部 典 英

Norihide

ABE

中山峠に立つ。

澄み切った大空が広がっている。この大空を突き破る作品を造りたいと思った。

中山峠は札幌市の中心部から車で約55分のところに位置する、道民からも大変親しまれている観光地である。国道230号線を通って洞爺湖方面に行く途中かならずと言っていい程ここで皆一休みする場所である。その左手の坂道を上がった処の右側に『中山峠森の美術館』が建っている。

ここの右横庭にモニュメントを設置する機会を得たので、アイデアスケッチから現地に据え付けるまでを追ってみたい。

今回のモニュメントの設置目的は『中山峠森の美術館』の来館者増を図るためと位置付けられている。その理由としては、この美術館の下にある道の駅『望羊中山』には数多くの来館者があるが、その流れを上の上の美術館にも繋げたいとの狙いである。売店、おみやげ屋、トイレと従来からある場所へは足を運ぶが、まだ新しい森の美術館にはそのまま足が向かないということである。ちなみにこの美術館は『アール・ヌーボー（“新芸術”の意）』様式の家具調度、食器、照明器具、アクセサリ等を主に展示している。

こんなテーマを与えられ次の様なことを考えてみた。

1. 家族の表現（温かい雰囲気を出す＝複数の形）
2. 足を運ぶ表現（動きのある形）
3. 楽しい表現（変化のある踊っているような形）
4. 歴史の表現（先祖を敬う形＝道祖神、旅行者を守り邪神をさえぎるといふ神で村里の境などに祭る）
5. 農業の表現（芽生えの生長する向天への形）

下から見て「あれは何んだろう」とまず興味をそそるフォルム（形、構造）にし、側まで足を運ばせ美術館へと繋げることを念頭において造形性を十分考慮して制作することにした。

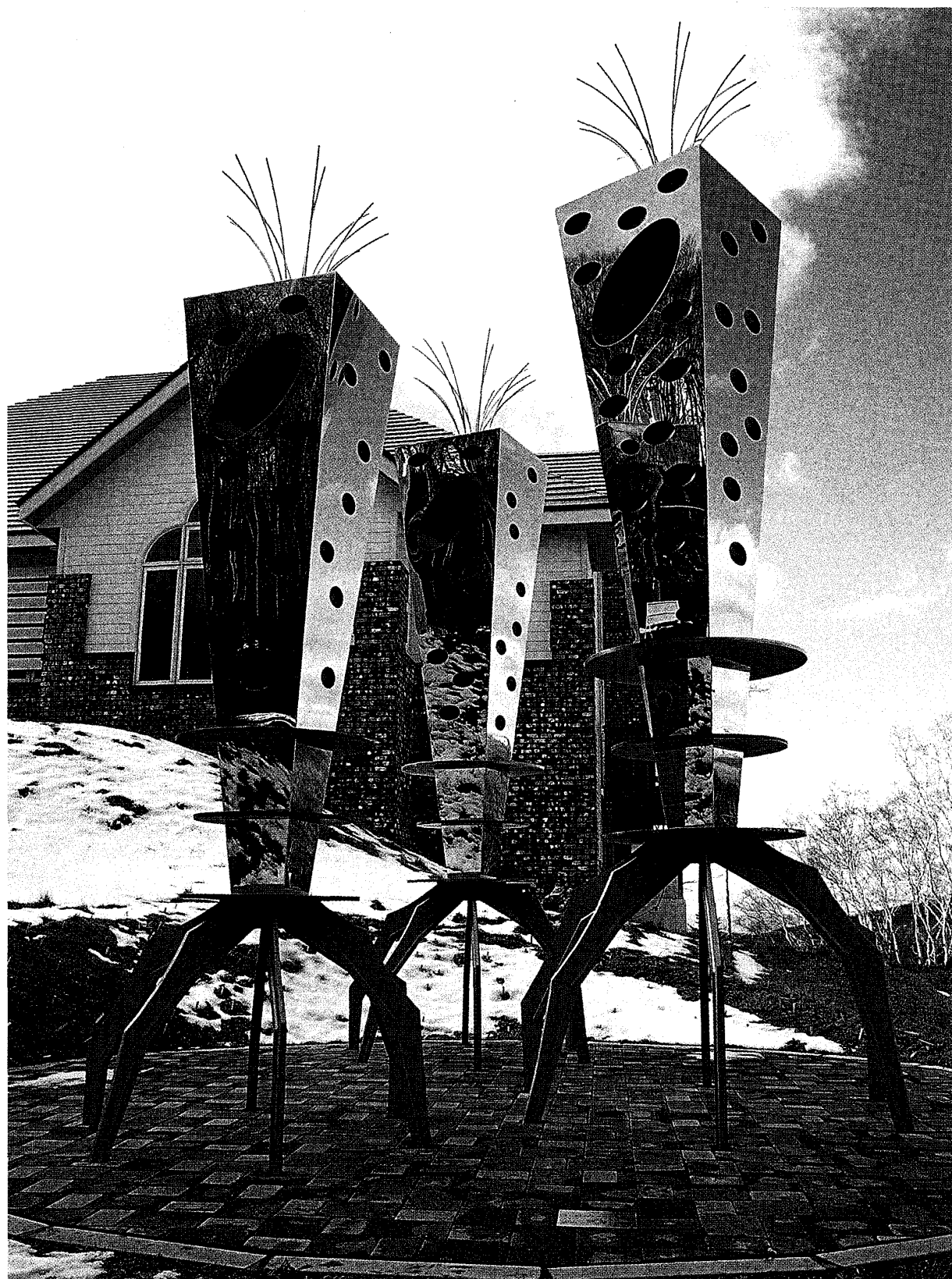
しかし実際にどんな形にするのか試行錯誤を重ねながら何枚かのアイデアスケッチを行った。その中から314頁に示してあるものが考えたコンセプトを一番良く表現している形体と考へ町側と打ち合せを行った。結果これでよろしいとの了承を得て、具体的な制作に入った。

材質は、屋外の設置になるため風雪等に耐久であり、錆びないステンレスにした。美しい外景が映る鏡面仕上としたが、ただの平面鏡面だけではなく楽しさを出すアクセントの黒点を四

角錐の一面に10数個凹状に入れた。上部の中心に楕円状の空洞を設け、ここから見える実景と鏡面に映る外景の虚と実の世界を表現出来る構造としモニュメント自体と自然との融合を考慮した。同じ形体を大（高さ4.5メートル）、中（高さ4.0メートル）、小（高さ3.5メートル）の3体を配置し、和という親近感を持たせた。動きのある形は複数の足（6本）を配し生きものの雰囲気表現し、又頭部には毛の様にも見える触手を配し、ユーモアを織り込んだ生命力を表現した。

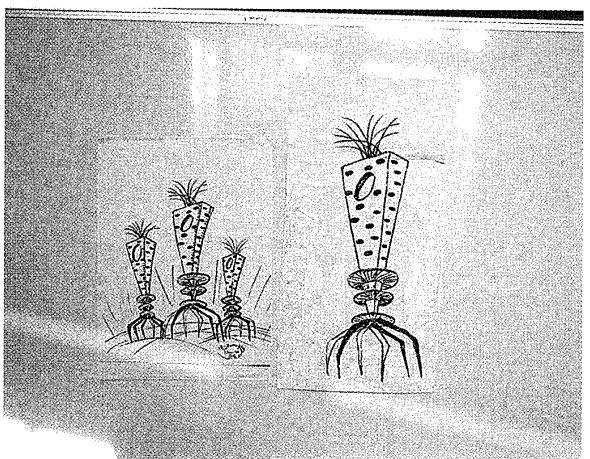
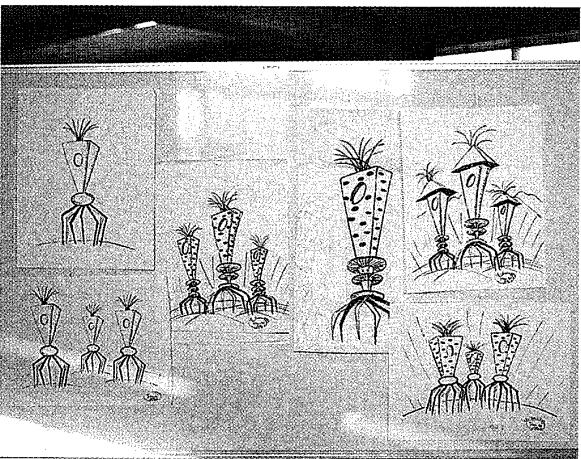
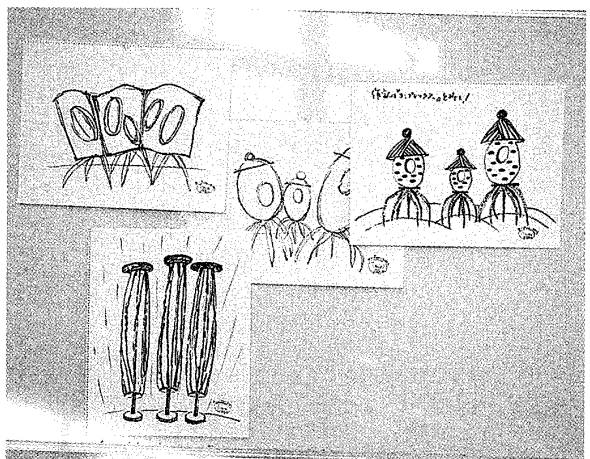
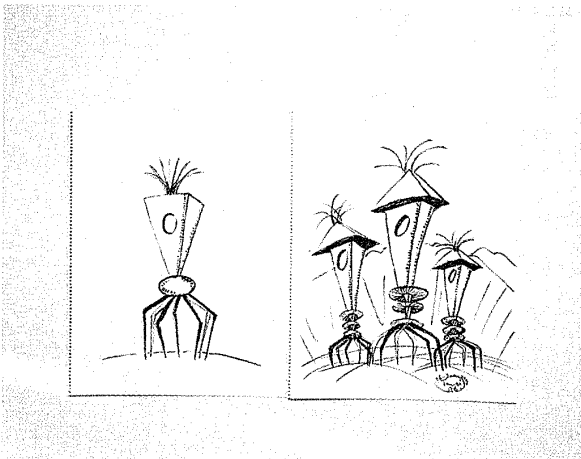
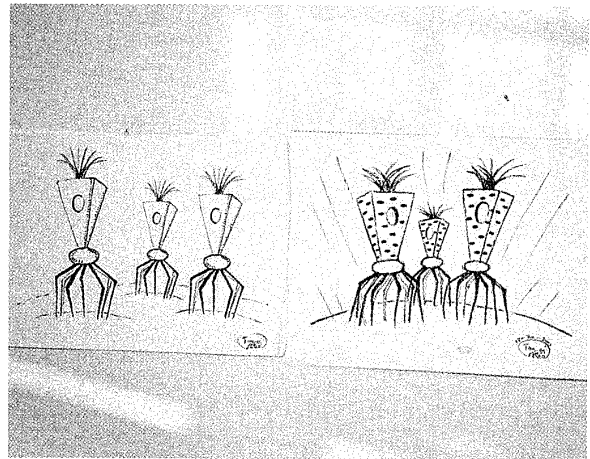
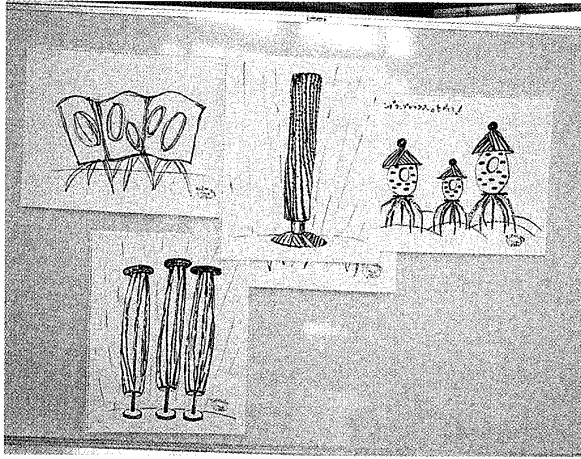
全体的な基本形は四角錐を逆にし、町やここを訪れる人々の拡がりの意味する形とした。これらのことを全て包含し作品名を『ネエ ダンナサン あるいは未・和・動』と命名したが、中山峠の空を突き破ることが出来たのだろうか。

ネエ ダンナサン あるいは未・和・動

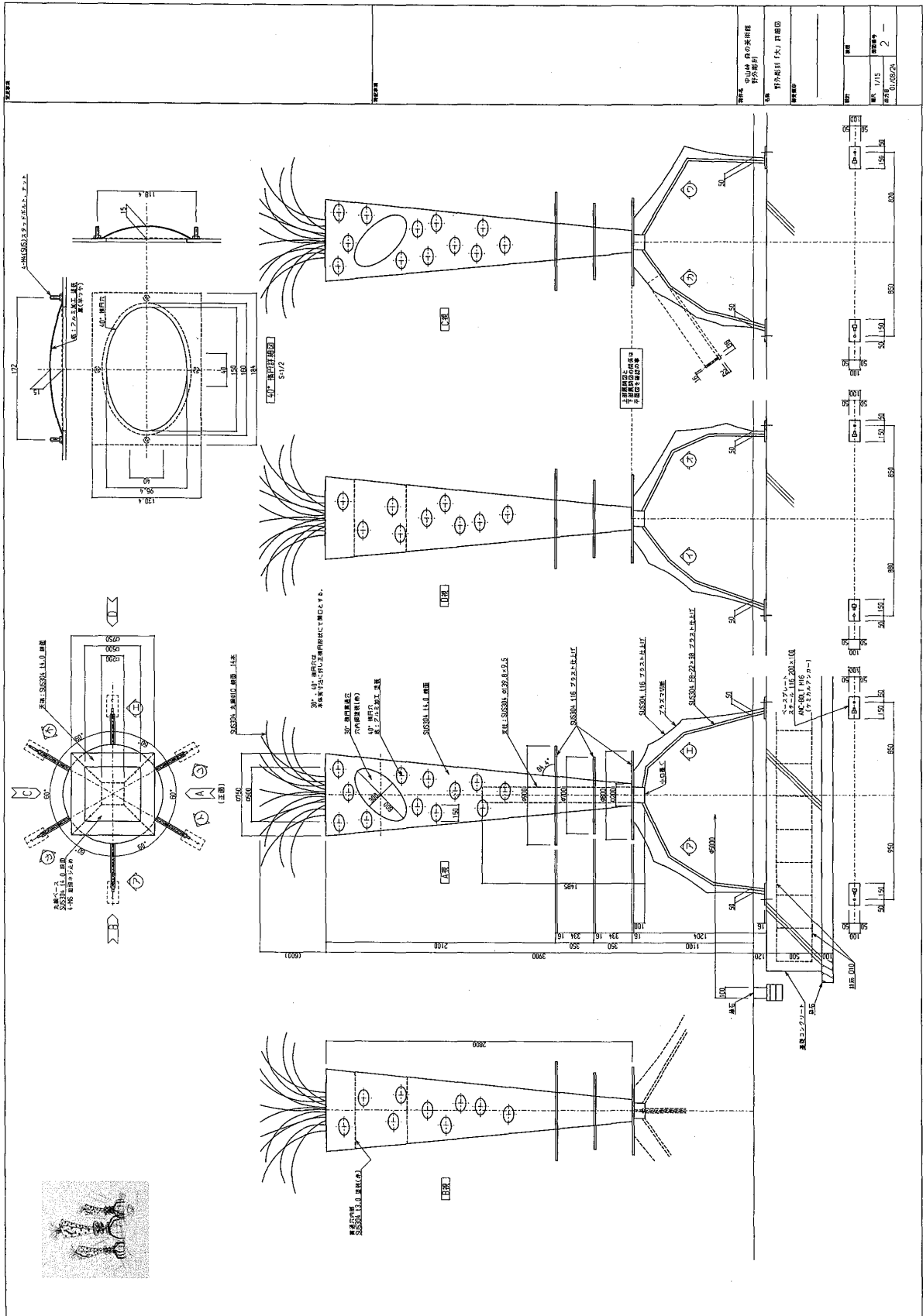


「ネエ ダンナサン あるいは未・和・動」 制作年：2001年10月
サイズ：高さ4.5m, 4.0m, 3.5m(3体) タテ5.0m×ヨコ5.0m
材質：ステンレス, アルミ他

ネエ ダンナサン あるいは未・和・動
アイデアスケッチ

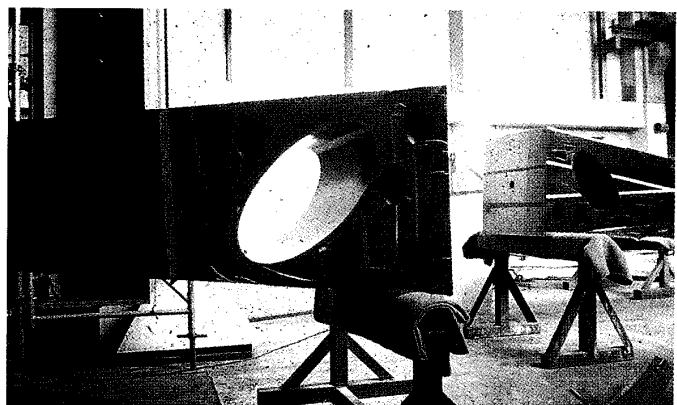
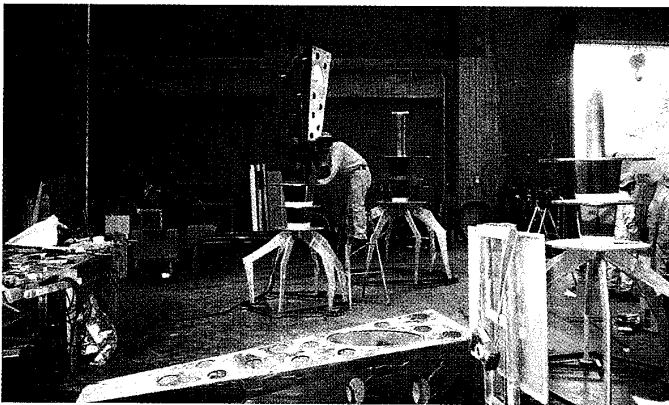
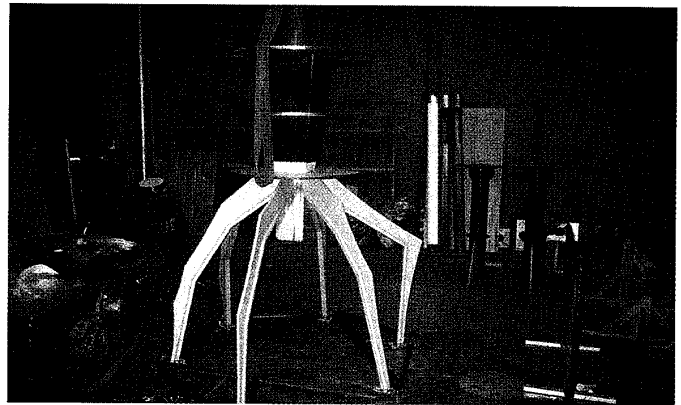
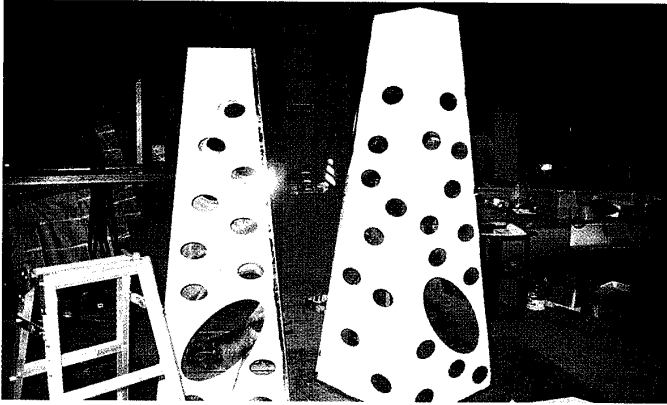


決めたアイデアスケッチ

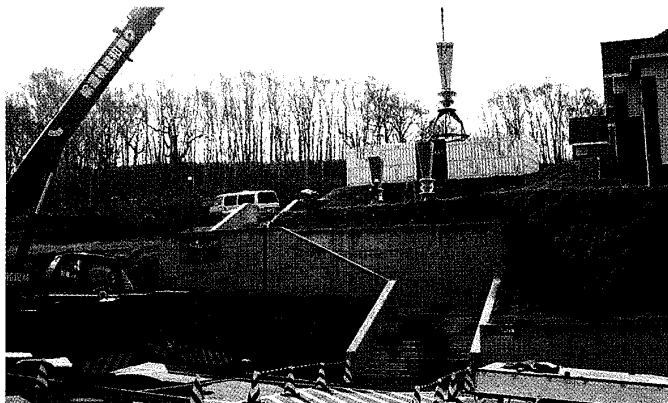
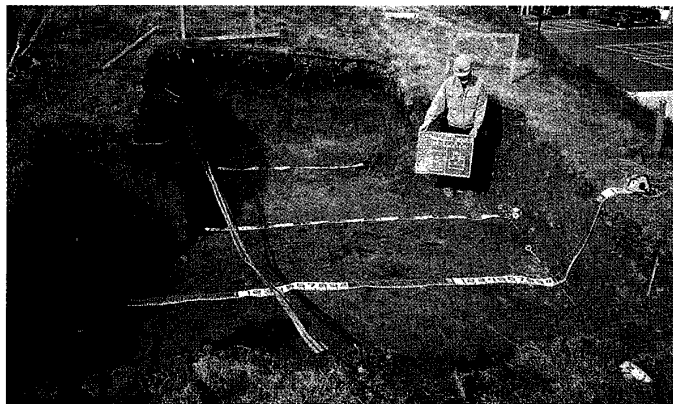


設計者	中山 啓太郎
監理者	野分 龍夫
図面番号	2
縮尺	1/15
縮尺	1/100

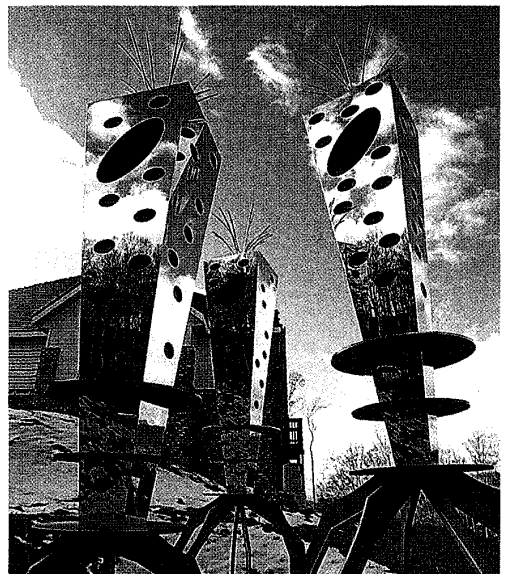
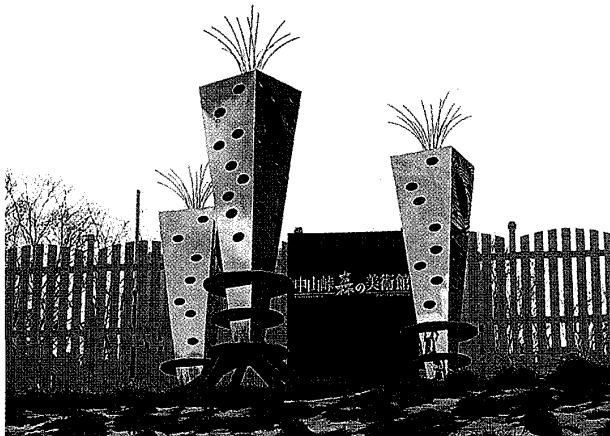
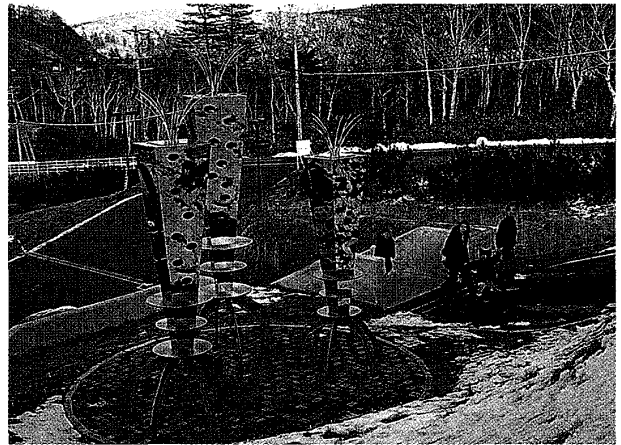
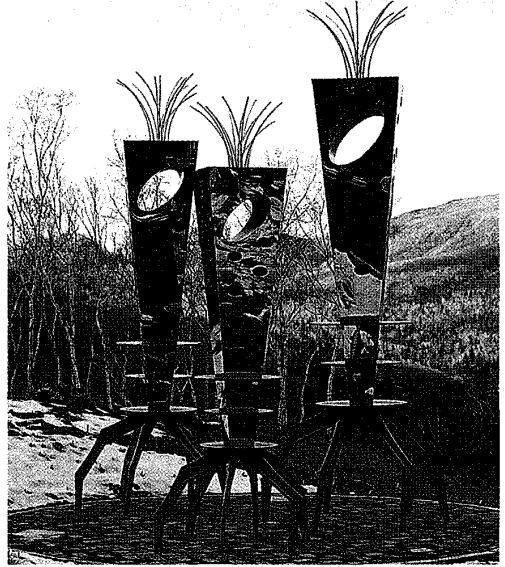
ネエ ダンナサン あるいは未・和・動 製作工程



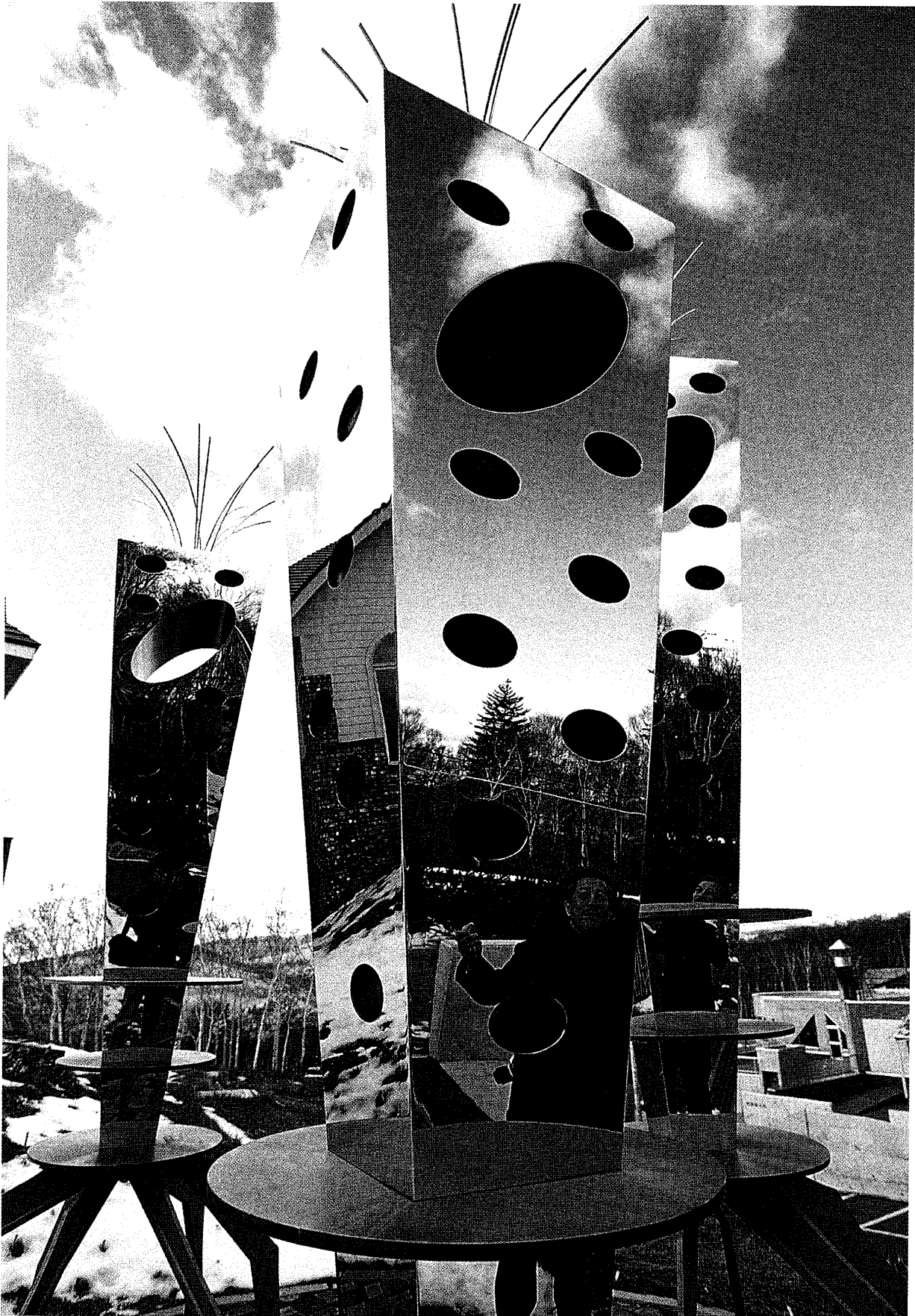
ネエ ダンナサン あるいは未・和・動 施工風景



ネエ ダンナサン あるいは未・和・動



ネエ ダンナサン あるいは未・和・動



・製作, 施工: AiM エー・アイ・エム株式会社